

## 水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成29年1月11日
タイトル	「くわい」収穫の見学をしたよ！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成28年12月7日（水）福山市立川口小学校5年生87名による「くわい」収穫見学取材しました。

福山市立川口小学校は校章に「くわい」が使っており、同校では毎年5年生はより生産量日本一の「くわい」を学校内で栽培し、農家の方から「くわい」栽培の話聞き、農業用水のしくみや環境、歴史、食文化など多方面について学ぶことで郷土の農業に関心を深めることを目的とした学習に取り組んでおられます。

水土里ネット福山組合員の種本守雄さんのほ場約2,000㎡でくわい収穫を見学しました。川口小学校からほ場まで来た子ども達、ほ場で収穫しているところをクラスごとに見学します。種本さんが、ほ場の道路側に見学しやすいように収穫するところを残しておいてくださり、子ども達の目の前で収穫を見せていただきました。



水中ポンプの水圧でくわいの根元を浮かせ茎についたくわいを手で採り、小さなくわいは魚を捕まえるように網で掬って収穫します。水中ポンプを空に向けると消防車の放水のように勢いよく水柱が上がりよく晴れた空に虹が出て子ども達が一斉に歓声をあげました。

全員の収穫見学が終わると、種本さんに質問する時間が設けられました。

・くわいを収穫した後はどうするのですか？

12月20日頃まで収穫し、その後は茎を肥料として耕運します。来年6月の植付けまでに4回耕運して土作りをします。

・一日でどのくらい収穫するのですか？

20kgのコンテナを50ケースくらいです。その中から商品として出荷するものは限られています。

・収穫したくわいはどうするのですか？

収穫したくわいを家に持って帰り、特製の大きな洗濯機でくわいをきれいに洗い、色、大きさ、形に選別し規定の箱に入れて出荷します。

・水を沢山使っているけど、あふれないのですか？

この水は芦田川から取水している農業用水で、少し上流の樋門や水路の堰板で調整しているのであふれたりしません。

・水を使って収穫するようになったのはいつからですか？

約30年前から現在の収穫方法になりました。以前は鍬で掘っていました。

・水圧でくわいに傷がつかないのですか？

大変水圧が強いので、コツがいります。根を下から浮き上がらせるように水を当てています。

・収穫にどのくらいの時間がかかりますか？

1,000㎡で4日かかります。このほ場は8日かかります。

・今年の出来はどうですか？

8月に天候が良く今年は豊作かなと期待したのですが9月、10月の長雨であまりくわいが大きくなりませんでした。例年どおりといったところです。

子ども達の説明に丁寧に答えてくださり、子ども達も一生懸命ノートにメモを取っていました。最後に全員で大きな声で「ありがとうございました」とお礼を述べて帰校しました。



川口小学校の校庭で栽培しているくわいは1月に子ども達で収穫し、自分達で考えたくわいを使ったレシピで調理実習をするそうです。

水土里ネット福山は、こうした取り組みに協力し子ども達に農業を通じて「ふるさと」の素晴らしさを伝えられるよう21世紀土地改良区創造運動に取り組んでまいります。